第4回名桜大学国際学群公開シンポジウム

WUBなど世界のウチナーンチュネットワークを活用した国際交流教育の構築

沖縄つなぐ、人。心。

海外のウチナーンチュネットワークを活用した国際交流教育の在り方を考える名桜大国際学群公開シンポジウム（名桜大主催）が21日、同大多目的ホールで開かれた。WUB（ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション）の役員や研究者、留学生が登壇。国際化時代に必要な多様性を学ぶのに、WUBをはじめとする海外県人との協力が有効と指摘があり、留学生の派遣・受け入れ組織を大学内で整備する必要性などが挙げられた。基調講演とシンポジウムでの提言を紹介する。

コーディネーター
仲地 清氏

ウチナーンチュのネットワークを活用した国際交流教育の可能性について、WUB役員や研究者、留学生の提言に聞き入る参加者＝21日、名桜大多目的ホール

基調講演

WUB創立者 ロバート・仲宗根氏

ネットワークづくり途上

WUBは今世界に22の支部がある。各国輪番で会議をしている。当初ビジネスが中心だったが、今は教育、文化など、ビジネス以外もやっている。奨学金やハワイ大の沖縄研究センター設置などを手伝った。若者は海外経験があったほうがいいということで、3カ月くらいハワイ大の学生と交流、勉強するプログラムもある。ネットワークがあるからできることだ。

WUBの将来はどうなるか。私の父の時代は船でハワイに行くのに3週間かかった。今はフェイスブックもある。ビデオ会議もできる。技術とITで能率がよくなり、早く情報が流れる。こうしたものを活用したい。

世界地図で見れば、沖縄は小さな島。将来、世界の人に沖縄はどこですか、ウチナーンチュはどこにいるのかと聞かれれば、世界中にいると答えたい。中国人やインド人、ユダヤ人は数千年かけて世界に立派なネットワークをつくった。ウチナーは海外に移民してまだ100年。ネットワークづくりは始まったばかりだ。

アンドレス・比嘉氏

渡慶次 正則氏

町田 宗博氏

遠山 光一郎氏

シンポジウム

心の中の言葉を大事に

ウチナーンチュのネットワークを生かした交流協力の可能性はある。十分にできると思う。個人的にもやりたい。私がシンガポールを選んだのはコスモポリタン（国際人）として生きたいから。外国語や専門的な知識を得るプログラムがシンガポールにある。

県の委託事業である「ジョブチャレンジ」、1週間くらい若者を受け入れる事業があり、コーディネーター的な仕事をしたこともある。大学が実行するなら、事前に打ち合わせし、仕組みづくりから関わりたい。

スティーブ・ジョブスの言葉で好きなのは「人の意見という雑音で、あなたの内なる声をかき消してしまわないように」というもの。先輩から成功談や失敗談、経験などいろいろな話を聞き、ヒントを得るだろう。ただ皆さんの生き方や好きなことがあるはず。心の中にある言葉を常に大事にしてほしい。

多様性持って認め合う

海外の県系人社会の特徴は、沖縄伝統の島社会を保持していることと、現地社会との融合が見られることだ。ウチナーンチュのコミュニティーを維持し、沖縄独自の文化を保ちつつ、ブラジルをはじめとする南米、ハワイ、その地の文化と融合している。

国際化というのはロバート仲宗根氏からもあったが、多様性を持つことだ。国際人になるということ、国際交流というのは多様性を大事にしながらお互いを認めていくことにあると現地を回って実感する。ハワイに、南米、北米に行って初めて沖縄の文化が分かってくることもある。異郷の地に立って初めて自分のことが分かる。

そうした点から南米やハワイは国際交流、国際教育の場として非常に有効な場所である。南米は「沖縄」や「日本」「人間」を日本の若者に教えてくれる格好のフィールドだ。

人と人との交流大切に

名桜大としては国際交流科の設置が課題だ。留学の受け入れ、派遣で窓口を一本化あるいはハブとなる組織が必要だ。留学生の経験や知識を集約する組織もない。留学から帰ると普通の学生となり埋没する。力を結集すれば経験、能力を大学、地域に還元できる。また名桜大は80人近く留学生を受け入れているが、どこに行けば会えるのか分からず、語学教育などに活用するシステムもない。一つの案として留学生会館を建設できないか。

学生からは留学先で単位認定があるか聞かれる。そういうシステムも必要だろう。また就職活動をするので、留学は2年生までに終えたいという希望がある。留学経験者を優遇して採用するなど企業側にも考えてもらいたい。国際交流は人と人の関係を大事にしなければできない。人と人の交流を大事にすることが国際交流では大切ではないか。

アイデンティティーを

7月にブラジルで開かれた第1回世界若者ウチナーンチュ大会に参加した。その後、各国を回っていろんな国の人とつながりができた。このつながりを大事にしていきたい。

若者大会から生まれた6つの目的を紹介する。一つ目に「ウチナーンチュネットワークの拡大・強化」。次は「アイデンティティーの確認」だ。3番目に「沖縄文化の継承」、4番目に「国境を越えた理解・共感」、5番目は「失われつつある歴史や文化への再注目」、最後に「次世代を担うグローバルリーダーの育成」だ。

沖縄人としてのアイデンティティーは、外国に行かないと分からないこともあると思う。ただ、留学生会館を造り、交流の場をつくれば海外に行かなくてもよくなるのではないか。一番の問題はやはりウチナーンチュとしてのアイデンティティーだ。それをはっきりさせることだ大事だ。

パネリスト

遠山 光一郎氏　シンガポール沖縄民間大使
町田 宗博氏　琉球大学教授
渡慶次 正則氏　名桜大学教授、全学交流委員会委員長
アンドレス・比嘉氏　名桜大学大学院国際文化研究科1年次
コーディネーター　仲地 清氏　名桜大学教授

WUBネットワーク会長 長嶺 爲泰（ためやす）氏

生きる喜びを移民で学ぶ

1954年、小学校5年生の時に琉球民政府の戦後初めての計画移住でボリビアに渡った。原生林を開拓する生活だった。住居は柱だけで屋根がない。周囲に町はなく、食事は米と塩で味付けした肉、具のないスープ。水不足にも苦しんだ。移住者の半数以上が原因不明の熱病にかかり、移住して半年で15人が亡くなった。私もこの熱病にかかったが、九死に一生を得た。移住地近くの川が氾濫し、ネズミも押し寄せた。病気、水害、ネズミ、植民者の悲哀は言葉にできないほどだ。

過去を振り返ってボリビア移民で苦労したと人にいわれるが、当時は一生懸命だった。そして生きる喜びを学んだこと、学校で得られない知識を得たことには感謝でいっぱいの気持ちだ。お互い、いかに助け合って過ごすか、イチャリバチョーデーの心を感じている。

大学生の皆さんは豊かな社会、豊かな時代に生まれ、うらやましい。それだけに社会人になる前の貴重な時間を使って自分を磨いてほしい。己を信じ、磨くことが幸せにつながる。

一般入試
願書受付期間　平成25年1月28日(月)～2月6日(水)
個別学力検査　前期日程　2月25日(月)
後期日程　3月12日(火)
● 国際学群前期日程は、「東京」「大阪」「福岡」で受験できます。
● スポーツ健康学科後期日程は、「福岡」で受験できます。

公立大学法人
名桜大学
MEIO UNIVERSITY
NAGO・OKINAWA
国際学群
国際文化専攻／語学教育専攻／経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻／観光産業専攻
人間健康学部
スポーツ健康学科／看護学科
大学院
国際文化研究科／看護学研究科